

辞書から見る中日同形語「勉強」の意味変遷について

張 科 蕾

目次

はじめに

- 1 調査対象と研究方法
- 2 中国語における「勉強」の意味
- 3 中国語における「勉強」の意味変遷
- 4 日本語における「勉強」の意味
- 5 日本語における「勉強」の意味変遷
- 6 中日両言語における「勉強」の意味のズレが出た原因
おわりに

はじめに

古代から近代にかけての長い歴史の流れの中で、日本人は中国から大量の漢字と漢語を取り入れ、それらを使っているうちに日本語化させた。また、近代以降、日本人は漢字を利用して漢語の語構成に倣って新しい漢語を造った。そのゆえ、「野菜」「関心」「文明」「物理」のような、中日両言語において共に使われている、互いに借用関係にあり、いわゆる繁体字と簡体字の別を考慮しない同じ字形の主に二字漢語、即ち中日同形語が発生した。中日同形語は意味領域の広狭の違いによって同形同義語、同形異義語、同形類義語に分けられる。そのうち、日本語に借用された時は意味が大体同じ同形同義語であったが、使っているうちにズレが出る語が多く存在している。このような語の意味の変遷についての研究は、同形語が両言語における意味のズレが生じる原因の分析に役立つと思われる。本論は主に辞書を利用して、中日両言語における「勉強」の意味の変遷について管見を述べてみたい。

1 調査対象と研究方法

語の意味の変遷を究明するには、まず、対象となる語の出自、歴史上にできた意味項目ならびに現在

使われている意味項目を明らかにする必要がある。それに基づいて、歴史上の意味と現在使われている意味とを比較すれば、意味変遷の大体の様相が見られると思われる。

漢語の出自ならびに歴史上の意味を求めるには利用できる辞書や資料は少ない。今回の調査にあたって、中国語のほうは『漢語大詞典』を、日本語のほうは『日本国語大辞典』をそれぞれ用いることにしたい。両方とも漢語の出典ならびに意味の流れを重視する大型辞典なので、初出例を求めるには、歴史上の意味を全部網羅するには無理があるかもしれないが、現段階では、時期判断ならびに意味変遷を究明するには比較的信頼性の高いものとしてよく利用されている。

「勉強」の現在の意味を求めるには利用できるものは比較的多い。今回の調査にあたって、中国語のほうは『現代漢語詞典』『現代漢語八百詞』『現代漢語規範詞典』を、日本語のほうは『広辞苑』『新潮現代国語辞典』『三省堂国語辞典』をそれぞれ使うことにする。以上の辞書における「勉強」の意味解釈を比較したうえで、「勉強」の現在の意味をまとめてみる。さらに、中日対訳コーパスを利用し、実際文例でその意味項目を確認する¹⁾。コーパスを利用してできた結論の信頼性はいっそう高まるとされる。

2 中国語における「勉強」の意味

『漢語大詞典』によると、中国語における「勉強」の意味は次のようである。

① 尽力而为。(できるだけ…をする。)

《礼記・中庸》“或安而行之，或利而行之，或勉强而行之，及其成功一也。”[汉]刘向《上灾异封事》“君子独处守正，不挠众枉，勉强以从王事，则反见憎毒讒愆。”[宋]苏轼《拟进士对御试策》“道可以讲习而知，德可以勉强而能，唯知人之明不可学，必出

于天资。”[明]归有光《河南策问对二道》“勉強学问，则闻见博而知益明。”

② 能力不足而强为之。(力が足りなくてもむりやりする。無理して…する。かろうじて…する。)

[唐]杜甫《法鏡寺》“身危适他州，勉強终劳苦。”《老残游记》第八回“于是众人搀着，勉強移步，走了约数十步，方才活动，可以自主。”杨沫《青春之歌》第一部第五章：“深夜，他勉強坐起来点上灯，看见桌上放着三封信。”

③ 心中不愿而强为之。(気が進まないが強いてする。いやいやながら…する。)

[三国魏]嵇康《与山巨源绝交书》“不相酬答，则犯教伤义，欲身勉強，则不能久，四不堪也。”[清]刘献廷《广阳杂记》“公能食此蝇，吾与公赌，输吾座下马。辅臣念言即出诸口，遂勉強吞之。”巴金《家》“剑云微笑了，不过谁也看得出，他的笑是很勉強的。”

④ 使人做他不愿做的事。(無理をさせる。強いる。)

浩然《艳阳天》“焦克礼见萧长春没留下来的意思，也不好再勉強。”

⑤ 牵强，理由不充足。(こじつける。十分でない。無理がある。)

[清]李渔《巧团圆·争购》“你们两个的话，都说的勉強，毕竟仅先的是。”叶圣陶《线下·一个青年》“有些资料明明是故意找出来的，但是出之以恳挚和悦的声调与姿态，就没有勉強敷衍的痕迹，使听到的人十分悦乐。”

⑥ 将就、凑合。(なんとかこなせる。どうにかこうにか。)

[清]李渔《慎鸾交·目许》“据小弟看来，不但第三名不堪附骥，连那第二个女子也是勉強续貂。”《红楼梦》“我也勉強了一首，未必好，写出来取笑儿罢。”杨沫《青春是美好的》“有几个同学同情我的遭遇，帮助我交了两三个月的饭费，勉強读完了那个学期。”

『現代漢語辞典』『現代漢語八百詞』『現代漢語規範詞典』における「勉強」の現在使われている意味は次のようである。

『現代漢語詞典』

① 能力不够，还尽力做。(力が足りなくてもがんばる。無理して…する。かろうじて…する。)

这项工作我还能勉強坚持下来。

② 不是甘心情愿的。(気が進まないが強いてする。)

いやいやながら…する。)

碍着面子，勉強答应下来。

③ 使人做他自己不愿意做的事。(無理をさせる。強いる。)

他不去算了，不要勉強他了。

④ 牵强，理由不充足。(こじつける。十分でない。無理がある。)

这个理由很勉強，怕站不住脚。

⑤ 将就，凑合。(なんとかこなせる。どうにかこうにか。)

这点草料勉強够牲口吃一天。

『現代漢語八百詞』

[动] 使人做自己不愿意做的事。(無理をさせる。強いる。)

你不愿意去，我们决不勉強你。|在这件事情上我可没有勉強过他。|他不来就算了，不要勉強。|不应该勉強一个人去做他不愿意做的事情。

[形]① 能力不够还努力去。(力が足りなくてもがんばる。無理して…する。かろうじて…する。)

在这些困难的日子里我们总算勉強坚持下来了。|小张食欲不振，只勉強吃了一点。

② 不是甘心情愿的。(気が進まないが強いてする。いやいやながら…する。)

他的回答实在很勉強 | 他笑得很勉強 | 他不高兴，很勉強地把我让到屋子里去。

③ 凑合，将就达到某种标准。(なんとかこなせる。どうにかこうにか。)

这样的产品算在二等已经很勉強了。|你说的理由都很勉強 | 因为没有合适的人，只好勉強让我来作。

『現代漢語規範詞典』

① **副** 表示不能、不愿而不得不做。(無理して…する。かろうじて…する。いやいやながら…する。)

勉強支撑 勉強答应

② **动** 让人做他不愿做的事。(無理をさせる。強いる。)

你不同意我就不勉強了。

③ **形** 理由不充分。(十分でない。妥当でない。)

这种说法太勉強，很难成立。

④ **形** 将就，凑合。(なんとかこなせる。どうにかこうにか。)

材料勉強够用。

以上の辞書における「勉強」の意味解釈は大体

同じで、意味項目の分け方には多少違いがあるだけである。その中、『現代漢語詞典』の解釈は『漢語大詞典』に一番共通点が多くて、比較分析には便利なので、本論は『現代漢語詞典』の解釈を採用して説明したい。

「勉強」をキーワードとして中日対訳コーパスで調べた結果、208 例が手に入った。意味分布は以下のようにまとめられている。

①	②	③	④	⑤	計
能力不够，还尽力做。	不是心甘情愿的。	使人做他自己不愿意做的事。	牵强理由不充足。	将就，凑合。	
63	62	25	15	43	208

例として次のように挙げられる。

① 能力不够，还尽力做。

○ 抗日是一件大事，少数人断乎干不了。勉强干去，只有贻误。『毛沢東選集Ⅱ』

○ 她慢慢爬起身来坐在沙子上，雨水顺着头发流到全身，她感到一阵彻骨的寒冷，浑身颤抖着，牙齿打着战，她勉强挣扎着站起身来，那个青年又说话了……『青春の歌』

○ 要不是我勉强忍住，大概会流泪的吧！『ああ、人間よ』

② 不是甘心情愿的。

○ 剑云微笑了，不过谁也看得出来他的笑是很勉强的。『家』

○ 我要明告她，但我还没有敢，当决心要说的時候，看见她孩子一般的眼色，就使我只得暂且改作勉强的欢容。『彷徨』

○ 6月26日，中共中央在懋功北部的两河口召开政治局会议，经过讨论，张国焘勉强同意了中央关于北上的意见。此后，中共中央率领红一方面军继续北上。『鄧小平選集Ⅱ』

③ 使人做他自己不愿意做的事。

○ 婉小姐凝眸看着恁如好半晌，叹口气道：“算了，算了，你不肯告诉我，难道我能勉强你么！”『霜葉は二月の花に似て紅なり』

○ 我越来越感到，五、六十年代的大学生和七、八十年代的大学生是不同的！好吧，我们谁也不要勉强谁。『ああ、人間よ』

○ 然而，思想——各人的信仰和思想，这却是勉强不得的。她希望道静尊重她的思想，正像她尊重道静的一样。『青春の歌』

④ 牵强，理由不充足。

○ 关于花与国民性，西园寺先生的见解很有独到之处。细细想来，以樱花比喻日本人、牡丹比喻中国人的性格特征，虽难说十分吻合，却也不算勉强。『日中飛鴻』

○ 给八千代这么一问，梶一时语塞。所谓傻家伙，既非针对八千代，又不是针对克平。勉强说来，是针对两人年轻这点的。『明日来る人』

○ “结巴磕子”是“口吃者”的意思，“结巴磕子赶大车”这一句还勉强有讲，其余几句完全没有意义，不过是追求一种节奏和音韵上的快感。『鐘鼓楼』

⑤ 将就，凑合。

○ 中午，从前边那段修得勉强可以行车的公路上，颠颠簸簸地驶来一辆土黄色的汽车。『赤い高粱』

○ 这是倪吾诚的生命仅有的、勉强的、不稳定的生灭。『応報』

○ 照例，这种背诵本县各大户发迹史的谈话一开始，只有瑞姑太太还勉强能作老太太的对手，恁如的母亲是外县人，少奶奶年轻，都不能赞一辞。『霜葉は二月の花に似て紅なり』

3 中国語における「勉強」の意味変遷

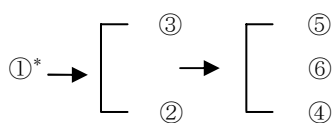
『漢語大詞典』によると、「勉強」の出典は『礼記』で、もともとの意味は「できるだけ…をする」である。この意味が発展して、三国時代になると意味③「気が進まないが強いてする」、唐になると意味②「力が足りなくてもむりやりする」が使われるようになった²。さらに発展して清になると意味⑤「十分でない」、⑥「どうにかこうにか」が出て、意味④「無理をさせる」が現代になってはじめて使われるのである。

例によると、もともとの意味は明の時代の『河南策問対二道』までずっと使われていたが、それ以降、あまり使われなくなったようだ。『現代漢語辞典』によると、その意味は今すでになくなっている。「できるだけ…をする」というと、何か無理なところがあることを暗示している。その無理を引き起こす心理的原因と体力・能力的原因が注目されて、意味③と

意味②が出たのである。さらに、無理して何かをすると、マイナス的な結果が出る可能性が高いから、意味⑤、⑥が出たと考えられる。また一方、自分だけ無理するのではなく、他人にも無理させるという点から意味④が出た。というように、もともとは積極的にできるだけ何かをするというプラス的なニュアンスから、現在は「無理、十分でない」など消極的になっている。

品詞から見ると、『礼記』の用例で「勉強」は形容詞の「安、利」と並列して、動詞の「行」を修飾するから、形容詞と判断される。③②⑤⑥は同様で、動詞を修飾する形容詞である³。ただし、意味⑥の『紅樓夢』の一例で、動詞的機能が現れるが、現代になると意味⑥において動詞的機能が失われた。④になると、「勉強」は副詞「再」に修飾される動詞だと認められる。

このようにして、中国語における「勉強」の意味変遷は次のようである。



プラス → マイナス

形容詞 → 形容詞
動詞

(*は現在消えた意味項目)

4 日本語における「勉強」の意味

『日本国語大辞典』によると、「勉強」の意味は次のようである。

① (形動) 努力をして困難に立ち向かうこと。熱心に物事を行うこと。励むこと。また、そのさま。

『古活字本毛詩抄』(17C前)「力の叶わぬ所、心のかなわぬ所をつとめてするぞ。勉強と云ぞ。』『随筆・安斎随筆』(1783頃)一十四「勉強 此の二字なりがたき事をしひてしとげるを云ふなり」『漂荒紀事』(1848-50頃)一四「此諸物勉強して舸に移し積みり」『西国立志編』(1870-71)〈中村正直訳〉九・一八「その余は、勉強なる農民に借し」『ひかげの花』(1934)「銀座の方ぢゃ、カフェは二十五日から毎晩

二時までやるんだとさ。神田の方よりも勉強するね。』『礼記・中庸』「或安而行_レ之、或利而行_レ之、或勉強而行_レ之、及_二其成_一功一也。」

② 気がすすまないことを、しかたなしにすること。

『通俗醉菩提全伝』(1759)「弟子今出家す。乃性の安ずる所にして半点の勉強なし」『日本外史一六・新田氏正記』(1827)「不_レ得_レ已而從_レ之。勉強而赴_レ戦。」『随筆・甲子夜話一十一』(1821-41)「勉強して櫓を揺しみたれば不覚睡りたり」

③ 将来のために学問や技術などを学ぶこと。学校の各教科や珠算・習字などの実用的な知識、技術を習い覚えること。学習。また、社会生活や仕事などで修業や経験を積むこと。

『新聞雑誌』(1871)一十七号・明治四年十月「今の学者豈一層勉強せざる可んや。』『小学読本』(1873)「学校に到りては、何事も、師匠の教へに、順ひて、只管勉強すべし。』『花柳春話』(1878-79)〈織田純一郎訳〉五「日夜に習字読書を勉強すれども」

④ 商品を安く売ること。商品を値引きして売ること。また、比喩的に用いて、大目に見ること。おまけをすること。

『花間鶯』(1887-88)〈末広鉄腸〉「アノ開明社の新築と一処に御任せになれば手間代や用材なども安くあがるから、非常に勉強をして千円で御引き受け申さう」『苦笑風呂』(1948)〈古川緑波〉「傍らなる二令嬢、(敬称を略した代りに、ぐっと代名詞の方で勉強することにした)が、『あたしあたしも』と言って、二人とも、高々と手を挙げてゐるではないか」『現代風俗帖』(1952)〈木村莊八〉「上物です。ねえ、そこいらは飛切りです。勉強しますよ。」

『広辞苑』『新潮現代国語辞典』『三省堂国語辞典』における「勉強」の現在使われている意味の解釈は次である。

『広辞苑』

① 精を出してつとめること。

② 学問や技術を学ぶこと。さまざまな経験を積んで学ぶこと。「数学を勉強する」「何事も勉強だ」

③ 商品を安く売ること。「お値段は勉強しときます。」

『新潮現代国語辞典』

(名・スル自他動)

① しいてつとめること。精を出すこと。
「無暗に学問に勉強して、体を不健康にしてしまうたり[当世書生気質]」「耐忍勉強の力と見えしも[舞姫]」

② 学問をすること。勉学。
「如何したらば立身ができるだろうか、如何したらば金が手に這入るだろうか(略)と云うやうなことにばかり心を引かれて、齷齪勉強すると云うことでは、決して真の勉強は出来ないだろうと思ふ[福翁]」「家のもは大変な勉強家だと思つて居る[吾輩は猫である]」「試験の為に勉強し[平凡]」「それを自覚したのは高校の時、その時、私は、いわゆる勉強というものを、すべてやめたんだ[ひざまずいて足をお舐め]」

③ [俗]商品などを安く売ること。
『三省堂国語辞典』
(名・自他サ)
① (能力や知識などを得るために)心をはげまして、ならったり学問をしたりすること。
② [将来のための]経験。「いい勉強になった」
③ ねだんを安くすること。「勉強しておきましょう」

以上の辞書の解釈は大体同じであるが、『三省堂国語辞典』には「精を出してつとめること」という意味が、『新潮現代国語辞典』には「経験」という意味が明示されていないことに注目されたい。これは例の二部の辞書の解釈には間違いがあるというわけではなく、語の意味の理解における違うまとめ方だと思われる。いずれにしても、『広辞苑』の解釈は両者の意味を総合したもので、一目瞭然であるので、本論はそれに基づいて分析する。

「勉強」をキーワードとして中日対訳コーパスで調べた結果、498 例が手に入った。意味分布は以下のようにまとめられている。

①	②	③	計
精を出してつとめること。	学問や技術を学ぶこと。さまざまな経験を積んで学ぶこと。	商品を安く売ること。	
8	490	0	498

例として次のように挙げられる。

① 精を出してつとめること。

○ 赤シャツに逢って用事を聞いてみると、大将例の琥珀のパイプで、きな臭い煙草をふかしながら、こんな事を云った。「君が来てくれてから、前任者の時代よりも成績がよくあがって、校長も大にいい人を得たと喜んでいるので——どうか学校でも信頼しているのだから、その積りで勉強していただきたい」 『坊ちゃん』

○ 「こういう話を聞いたことが有ましたッけ。あの先生が長野に居た時分、郷里の方でもとにかくああいう人を穢多の中から出したのは名誉だと言って、講習に頼んだそうです。そこであの先生が出掛けて行った。すると宿屋で断られて、泊る所が無かったとか。そんなことが面白くなって長野を去るようになった、なんて——まあ、師範校を辞めてから、あの先生も勉強したんでしょう。妙な人物が新平民なぞの中から飛出したものですね」 『破戒』

○ 帰りに彼は自分の人格のあまり上品でないことを反省した。自分は杉子の夫に値しないものだ、勉強しなければと思った。 『友情』

② 学問や技術を学ぶこと。さまざまな経験を積んで学ぶこと。

○ 「それじゃ今度も看護婦の勉強がしたいんだね。」 『雪国』

○ どんな分野においても、才能を発揮し、一流の域に達する人は、学校の勉強の成績などに関係なく、たいへん頭がよい、知能が高いといえます。 『一人っ子の上手な育て方』

○ 兄は実業家になるとか云って頻りに英語を勉強していた。 『坊ちゃん』

「商品を安く売ること」という意味はコーパスから文例が出ていないが、『新潮現代国語辞典』に示したように、そういう意味の「勉強」は俗語用法であるためだろうと思われる。

5 日本語における「勉強」の意味変遷

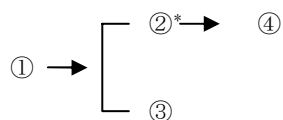
『日本国語大辞典』の解釈を見ると、「勉強」の出典は中国語の「勉強」と同じで、中国から日本に取り入れられた語だと分かる。日本に取り入れられてまもなく、意味②「気がすまないことを、しかたなしにすること」が出た。さらに明治期になると意味③「将来のために学問や技術などを学ぶこと。学

校の各教科や珠算・習字などの実用的な知識、技術を習い覚えること。学習。また、社会生活や仕事などで修業や経験を積むこと。意味③よりすこし後意味④「商品を安く売ること。商品を値引きして売ること。また、比喩的に用いて、大目に見ること。おまけをすること」が出た。

日本語における「勉強」のもともとの意味は「努力をして困難に立ち向かうこと。熱心に物事を行うこと。励むこと。また、そのさま。」で、中国語のもとの意味と大体同じで、発生した意味②も中国語の意味③と大体同じであるから、意味変化の原因も同じだと考えられる。でも、意味②の出た時期は中国語での意味③の出た時期より遅いから、中国から取り入れられた可能性もある。例によると、意味②は1821-41年の『甲子夜話』までずっと使われていたが、それ以降あまり使われなくなった。『広辞苑』によると、意味②は現在すでになくなっている。その代わりに、意味③④が出て、現在まで使われてきた。意味③の出た原因を考えると、意味①の「努力をして困難に立ち向かうこと。熱心に物事を行うこと。」は学問の分野に於いて使われると、「学習」の意味になるのである。つまり、[明]归有光『河南策問対二道』に書いた「勉強学問」である。「将来のために学問や技術などを学ぶこと。学校の各教科や珠算・習字などの実用的な知識、技術を習い覚えること。学習。また、社会生活や仕事などで修業や経験を積むこと。」は「熱心に物事を行う」態度と「努力をして困難に立ち向かう」姿勢を反映しているといえる。一方、意味④は意味②から出たと考えられる。意味②は商売の分野に於いて使われると「商品を安く売ること。商品を値引きして売ること。」になるのである。売主にとって、できるだけ商品を多く売り出すために、「安く売ること」は「気がすすまなくても、しかたなしに」しなければならないだろう。意味③と意味④は現在もよく使われていて、特にコーパスの検索結果からもわかるように、意味③は中心的な意味になって、造語力も強い。「勉強家、勉強会、勉強嫌、勉強盛、勉強心、勉強生、勉強机、勉強人、勉強振、勉強部屋、勉強者、勉強力」の12語は見出し語として、『日本国語大辞典』に収録されている。また、「試験勉強」「受験勉強」「社会勉強」「猛勉強」なども熟語としてよく使われる。ニュアンスはプラス的でずっと変わっていない。

品詞から見ると、もともとは形容動詞である「勉強」は今名詞、サ変動詞になる。形容動詞の機能は失った。

というように、日本語における「勉強」の意味変遷は次のようである。



プラス → プラス

形容動詞 → 名詞
サ変動詞

(*は現在消えた意味項目)

6 中日両言語における「勉強」の意味のズレが出た原因

中国の典籍『礼記』から出て、日本に借用された「勉強」という中日同形語はもともと両国において意味が大体同じであったが、なぜ今意味上ズレが出て、ぜんぜん重ならない同形異義語になったのか。以上両国の言語体系における「勉強」の意味変遷についての分析を見て分かるように、中国人は本義に暗示される「無理である」という意味に関する原因と結果に注目して使うから、今の諸意味が出たのに対して、日本語の「勉強」は本義と派生義の「気がすすまないことを、しかたなしにすること」が実際に使われるうちに具体化され、具体的な分野に限られて、今の意味になったのである。両国人が単語を使うときの注目点の相違は意味変化の方向の相違を引き起こすといえる。

おわりに

中日同形語は異なる言語の異なる語彙体系に位置し、また異なる文化的、社会的環境で応用されており、その両者の意味に差が生じるという結果になったのは当然のことである。日本語を勉強する中国人、中国語を勉強する日本人は、中日同形語の問題を十分に認識し、同形語だからすべての場合に安易にそのまま使ってしまうというような言語干渉を排除し、

中日同形語の意味分析によってそれを正しく効果的に使い、日本語らしい日本語、中国語らしい中国語の修得に努めるべきだ。

参考文献

- 羅竹風編（1994）『漢語大詞典』漢語大詞典出版社
呂淑湘編（1999）『現代漢語八百詞（増訂本）』商務印書館
山田俊雄他編（2000）『新潮現代国語辞典（第二版）』新潮社
小学館国語辞典編集部（2001）『日本国語大辞典（第二版）』小学館
中国社会科学院语言研究所词典编辑室（2002）『現代漢語詞典（増補版）』商務印書館
北京日本学研究中心（2003）『中日対訳コーパス』
李行健編（2004）『現代漢語規範詞典』外語教学与研究出版社・語文出版社

- 新村出編（2008）『広辞苑（第六版）』岩波書店
見坊豪紀他編（2008）『三省堂国語辞典（第六版）』三省堂

¹ 中日対訳コーパスは北京日本学研究中心の研究成果で、その中、中国の現代文学作品 26 篇、政府報告 4 篇、政治理論著作 8 篇、日本の現代作品 36 篇および日中共同声明 1 篇を収録したものである。

² この部分と「5 日本語における『勉強』の意味変遷」で示している意味の番号はそれぞれ『漢語大詞典』と『日本国語大辞典』による。

³ 『現代漢語規範詞典』は意味③②の品詞を副詞と判断したが、コーパスで検索した結果、「很勉強」「勉強的欢容」のような例があり、「勉強」は副詞に修飾されたり、名詞を修飾したり、副詞に無い形容詞の性質があるので、基本的に形容詞と判断するべきだと思われる。